

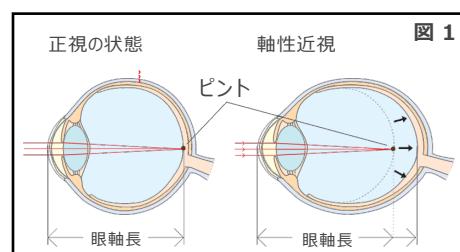
小児の近視抑制治療（低濃度アトロピン点眼治療）について

当院では小児期における近視の進行抑制を目的とした低濃度アトロピン 0.01%点眼薬（マイオピン）を用いた点眼治療を行っております。

【治療について】

日本では2人に1人が近視と言われています。先進国において近視は視力障害の主要な原因であり、近視は主に小児期に進行します。また、高度な近視の場合は、視力喪失、黄斑変性症、網膜剥離、緑内障などの眼疾患に発展する可能性があります。

近視は眼球が橢円形に伸び（眼軸長が伸びる）ピントの位置がずれることで生じる軸性近視のケースが多く（図1）、一度眼軸が伸びてしまうと、戻ることがありません。そのため、眼軸の伸びを抑えることが近視の進行を抑制するうえで重要です。



アトロピン配合点眼薬には眼軸の伸展を抑制する効果があるといわれ、近視の進行を遅らせることが統計的にも臨床的にも有意義な効果が確認されています。アトロピン 1 %点眼を使用した近視治療は 1960 年から行われていますが、散瞳（瞳孔が拡がる状態）によるまぶしさ、目の調節機能（ピントを合わせる機能）の低下による読み書きの困難、アレルギー症状、不快感などの副作用がありました。

近年シンガポールなどにおいて、低濃度アトロピン点眼は近視の進行抑制効果が約 60%程度あると報告され、副作用もほぼないことが確認されました。このことから当院では、低濃度アトロピン点眼液を使用した小児期の近視進行抑制治療を行っています。

※本治療は近視の進行を抑制するものであり、近視が全く進行しないわけではありません。

【治療の対象の目安】

- ・12歳以下の学童
- ・中等度（-6.0D）以下の近視の方
- ・3か月毎の定期通院が可能な方

【治療に使う点眼薬】

- ・低濃度アトロピン点眼薬 ※0.01%アトロピン点眼薬 5 mL
(製品名：マイオピン 図 2)
- ・点眼方法 両眼 1 日 1 回就寝前に点眼 （1カ月に 1 本使い切り）



新琴似もとやま眼科

【治療の流れ】

1. 治療の対象であるかを検査・診断で確認します。（保険診療）

2. 初回検査（自由診療）

- ・検査、診断、治療内容の説明を行い、点眼薬の使用を開始します。
- ・点眼後の副作用について

点眼薬使用開始後に眩しさ、手元の見えにくさ、アレルギー症状（目のかゆみ、充血、皮膚の炎症）、動悸、その他の気になる症状がありましたら当院までご連絡ください。

3. 1週検査

- ・検査、診断、点眼薬使用後の状況を確認し、異常がなければ治療を継続します。
- ・点眼薬による異常が認められた場合は治療を中止する場合があります。

4. 定期検査

- ・検査、診断、点眼薬を処方します。
- ・使用開始から3ヶ月間は毎月（初回・1ヶ月後・2ヶ月後・3ヶ月後）、その後は3カ月毎に定期検査を行います。（定期的に視力等を検査し治療を評価します。）
- ・治療は2年以上継続していただくことをお勧めいたします。

【治療の費用】

治療費用（検査・診断・薬剤費用）	
1ヶ月毎の検査・診察・点眼薬代（1本）	¥5,500（税込）
3ヶ月毎の検査・診察・点眼薬代（3本）	¥11,000（税込）

※この治療は自由診療です。（保険診療や子ども医療費助成制度は適応されません。）

【問い合わせ先】

治療についてご不明な点があれば、当院までご連絡ください。

新琴似もとやま眼科 TEL 011—769—0363

以上、低濃度アトロピン0.01%点眼による小児の近視抑制治療について説明いたしました。
ご了承いただける場合は、下記にご署名をお願いいたします。

年　月　日　　患者氏名：_____